

講師の先生に教わりながら初めての生け花に挑戦



色とりどりの花で気持ちを明るく 池坊柳川支部生け花体験教室を開催

2月13日、市民文化会館で池坊柳川支部の生け花体験教室がありました。支部創立90周年記念花展にあわせて開催した同教室には16人が参加。参加者は指導を受けながら、市近郊で採れるエメラルドウェーブやカーネーション、ガーベラなど色とりどりの花を生けました。初めて生け花を体験した蒲池小2年の梅崎汐音さん(写真右)は「今日作ったお花はお父さんにバレンタインデーのチョコと一緒にプレゼントしたい」とうれしそうに話しました。

県弁護士会賞受賞を報告した柳城中2年の富永さん(右)



お互いを認め合える社会に 県人権作文コンテストで弁護士会賞を受賞

2月22日、柳城中2年の富永ありささんが、沖教育長へ全国中学生人権作文コンテスト県大会の受賞を報告しました。県内の233校、4万1382編の作品が寄せられた同コンテスト。学校での出来事や自身の経験をつづった富永さんの作品は、「空の色は何色」のタイトルで県弁護士会賞を受賞しました。受賞を報告した富永さんは「読んでくれた人を勇気づけたいという思いで作文を書いた。お互いを認め合える社会になってほしい」と作品に込めた思いを話してくれました。

ワシなどカラスの天敵の声を使う作戦を説明する高校生



市民と協働して課題の解決を目指す 今回から高校生部門を新設

市民と市が協働して地域課題の解決を目指す「市民協働のまちづくり事業」。その公開プレゼンテーションと報告会が2月27日、水の郷で開かれました。当日は4団体が新規事業を発表。5団体が継続事業の成果などを報告しました。また、今回から新設された高校生部門では、伝習館高校が「カラスによる被害を減らすプロジェクト」を提案しました。採択結果など詳しくは、市公式サイトで確認できます。



掘割でゴミを拾い上げる参加者



きれいな掘割を次の世代へ 城堀の水落ちに併せて清掃を実施

江戸時代から続く柳川の伝統行事「水落ち」が、2月15日から24日まで行われました。これは旧城下町地区の掘割を良好な環境に保つため、城堀の水を抜いて、川底の清掃と日光消毒をする、年に一度の大切な伝統行事。水落ち期間中に毎年実施していたクリーンアップ大作戦は、コロナの影響で中止でしたが、2月20日には地元住民や市職員らが、掘割に入って鎌で藻を刈ったり、川底に沈むゴミを拾い上げたりしました。

まちかどレポート

身近な話題などお知らせください。情報をお待ちしています。
【問】企画課広報広聴係(☎77・8425)

出店や体験に来場者にぎわう 商工会議所青年部がYEG.fesを開催

柳川商工会議所青年部は3月12日、YEG.fesを市民文化会館とからたち文人の足湯公園の2会場で開催しました。同館では、キャンプやBMX、ドローン、ラジコンなど日頃できない体験に、子どもから大人まで多くの人が集まっていました。また、足湯公園は、村をイメージして作られた空間の中に、たこ焼きやポテトなどの飲食店や雑貨屋など60店以上が出店。当日は、陽気に誘われた約4000人の家族連れでにぎわいました。



【上】60以上の出店が登場した足湯公園
【下】文化会館でBMXを体験する参加者

滑らかになるようにヤスリでスプーンを磨く参加者



親子で楽しくスプーン作り 市民文化会館アート体験

市民文化会館で、定期的に行われているアート体験。3月12日には木製スプーン作りが行われ、13組29人の親子が参加しました。参加者は講師から作り方を教わった後、スプーン作りを開始。かたどった木を3種類のヤスリで磨き、クルミをつぶして出てくる油を使って塗装しました。親子で参加した竹井優貴ちゃん(5歳)は、「アート体験に初めて参加して楽しかった。作ったスプーンで大好きなカレーを食べたい」と笑顔で出来上がったスプーンを見せてくれました。

年に一度給食に登場するイチゴに笑顔を見せる児童たち



赤くて大きいイチゴに笑顔 市内小中学校にあまおう5372個提供

3月4日、市内全ての小中学校の給食に柳川で採れたイチゴ「あまおう」が提供されました。これはJA柳川と市で構成する農業振興活性化協議会が、地域で採れた特産品を子どもたちに食べてもらい、地産地消を進めようと取り組んでいるもの。児童や生徒に1人1個ずつ、合計5372個ものあまおうが給食に並びました。大和小学校では新鮮なあまおうに児童は大喜び。1年生の児童は「赤くて甘くておいしかったので、家でも食べたい」とご満悦でした。